

C: 医学史

医学史 No.5

精神医学の歴史——収容から地域医療へ、「狂気」の定義が変わった200年

★ この講座では大学の精神医学史・医療社会学・フーコーの権力論の知識を使います。採点者は大学教員です。「生政治 (biopolitics)」「脱施設化 (deinstitutionalization)」「リカバリーモデル」といった大学レベルの概念を答案に使うと、「精神科医は心の支えになる存在です」と書く他の受験生と突出した差がつきます。

導入文

「狂気」は時代によって全く異なる意味を持ってきた。大学の精神医学史・医療社会学では、フーコーの「狂気の歴史」(施設への収容は治療ではなく社会的排除だった)という権力論の視点が重要だ。脱施設化・リカバリーモデルという概念を答案に組み込むことで、採点者(大学教員)に「精神医療の構造的問題を知っている」と伝わり、他の受験生と突出した答案になる。

講義概要

精神医学の歴史を「収容の時代(19世紀)→身体的治療(ロボトミー・電気けいれん)→薬物療法の革命(クロルプロマジン1952)→脱施設化→リカバリーモデル」という5段階で体系化する。フーコーの生政治論、DSMの改訂と精神疾患の定義変更、当事者運動の意義まで整理する。

授業目標: 精神医学を「心の病気の治療」から、社会・権力・定義の変遷という歴史的文脈で理解させる。

対象者: 高2～高3・浪人生。医学部・医療系志望で、精神医療の歴史と現在を深く語りたい生徒。

授業時間: 授業90分+演習・質疑応答30分

到達目標: 精神医学の5段階の発展を説明できる/フーコーの権力論を精神医療に接続できる/リカバリーモデルの意義を論じられる

授業構成(90分)+演習・質疑応答(30分)

授業90分: 1 導入:「狂気」の定義は誰が決めるのかを問いとして提示 2 収容の時代: 精神病院の誕生と社会的排除の構造 3 フーコーの権力論: 収容は治療ではなく規律化だという視点 4 身体的治療: ロボトミー・電気けいれん療法の歴史と問題 5 薬物療法の革命: クロルプロマジンを変えた精神医療 6 脱施設化: 地域移行・当事者運動・リカバリーモデル 7 演習:「精神医療において医師は患者の何を守るべきか」を歴史的文脈で論じる

追加30分:「入院か地域医療かの選択」を脱施設化とリカバリーモデルで300字論述する演習と質疑応答を行う。

板書・スライド骨子: 精神医学5段階の発展年表/フーコーの権力論の概念/DSMの改訂と定義変更/リカバリーモデルの定義

課題:「精神医療における脱施設化の意義と課題」をリカバリーモデルと地域包括ケアの視点から200字で論じる。

備考：高校・予備校の先生方／編入学試験および大学院受験への橋渡しの基礎確認をしたい方にも対応。